

テーマ『色と光』

感性や言葉が大きく膨らむ年齢の2歳児。

年間を通して光や色に触れながら、子どもたちの感覚や言葉を拾い集め、興味関心をより深めていきたい。

〈5月からの様子〉

タッチ式ライトとカラーフィルムを準備

タッチすると光るライトの内側に、赤、青2色のカラーフィルムを入れ、室内遊具棚に設置してみる。

光を
感じよう

カラーフィルムを付けたライトを設置したのは、室内奥にある木製動物や積み木などのある構造コーナー。

1週間近くは誰も気が付かなかったが、担任間では“誰かが気が付くまで大人は触れずにいよう”と確認して見守った。



初めてKくんが気が付き、タッチすると「見て！！」と目を輝かせている。発見した喜び！その後「ピンク(赤のフィルム)になったよ！！」と手をかざしている。次々と他の子どもたちもそばに来て、隣に設置してあった青いライトにも気が付き遊びだす。

段々とライトの存在に慣れてくると、一人の世界でも遊べる場となっていく。

木製動物をピンク、青、とそれぞれのライトの下においてみて、色が映る様子をじっくり楽しんだり、数人で手をかざしては笑いあう姿が見られた。影にも気が付き不思議そうに見ている。T君は光る様子をみて「あったかいねえ」とつぶやいていた。



〈振り返り〉

「色」については、普段の状態でも子どもたちの世界の中には溢れていて、こだわりのある子は好きな色を集めたり、並べたりして遊ぶ様子が見られるようになってきた。ここでライトを使用することで、強めの刺激となる。“興味を持つ”きっかけ作りになったように思う。

“美しさ”などは人によって感覚が違うので、“保育者の思う通りに”と計画するのではなく、用意した環境の中で、どの子がどんな反応をするか、どう感じていたのか、と観察していくようにしたい。また、語彙の少ない時期ではあるが、子どもたちの心を先取りしないようにしつつ、保育者自身が感じた気持ちは豊かな表現で“言葉”にして、子ども達の感情を言葉にするための語彙増にも繋がるといいと感じる。

色の世界を楽しもう

〈6月からの様子〉

カラーフィルムやクリアカラーピタゴラスなど、透過性のある素材を準備。色のフィルターを通しての世界の見え方を楽しめるよう、環境を作っていく。

カラーフィルムでサンキャッチャーを作り、西日が入る室内の日差しと色を味わう。

クリアカラーピタゴラスで遊ぶ中で、色の並びや、透けて見える色の世界を楽しむ。また、組み立てたり手にとったりする中で、色の重なりに気が付いたり色々な色で試して遊ぶ。

サンキャッチャーの取り組みでは、作る工程で「わあキレイ～！」

「なに～??」と興味を持って参加してくる子が多かった。「何色にしようか」と保育者から相談すると、フィルムの色の中から「これ!」「青!」と声があがり、数色選んで楽しんで作ることができた。



クリアカラーピタゴラスは、透明性が高く美しい遊具で子どもたちもよく遊ぶ。1日の取り組みとせず、長く遊ぶ中で「全部黄色!」と単色にこだわる子や「緑の次は黄色、ここにピンクください!」と並びを楽しむ子、覗いて「〇〇さん(保育者)が青くなった!!」と向こう側の世界の色の变化を楽しむ子が出てきた。隣の子の遊びを見て、その楽しみが広がり、友だち同士で「緑と黄色になった!!」と笑いあう姿に繋がって、一緒に見る色の世界を楽しんだ。



〈振り返り〉

サンキャッチャーの取り組みは、作る工程は興味深く楽しんだが、実際に設置すると日の光の取り込みも弱く子どもたちにはあまり響かなかった。狙っていた光と色の融合は楽しめず。作り方や設置の工夫をして、またトライしたい。

クリアカラーピタゴラスのように、“向こう側が見える”ことに子どもたちはとても興味が惹かれるようだった。美しさ、透明性は経年と共に失われてもいくので、丁寧なメンテナンスと買い替えなどの環境設定を行いながら、子どもたちの感性に働きかける素材を用意していきたい。

後半期は“覗く”楽しさを味わうように、セロファン眼鏡なども楽しんでいけるといいと取り組みのアイデアも浮かんでいる。

色の混ざりを楽しもう

〈7月からの様子〉

食紅やゼラチン、透明な入れ物、タライやボウル、スプーンなどを準備する。また、泡あそび用に液体石鹼と泡で出るポンプを準備しておく。

水遊びの時間に、数日にわたり色が混ざるような素材を用意する。(色水、石鹼、ゼリー)子どもたちと選んだ色を数色用意し、色がついていく様を楽しむ。また、「こんな色になるかな」と予測してみたり、実際に色が混ざって変化する意外性も感じられると良い。石鹼の日は、泡で出るポンプに色水と石鹼を混ぜて用意。タライに大量の泡も用意して遊ぶ。ゼリーは色ごとに入れ物に分けて設定。一人ひとりそれぞれにスプーンなどですくいながら楽しむようにしていく。

色水遊びをしようと子どもたちと「何色にしようか」と問いかける。「あかー！」「きいろー！」「むらさき」とそれぞれに好きな色や知っている色を声にだす。透明なボトルに色水を入れると太陽の光を通してキラキラと見え、「キレ〜!!!」と自然と子どもたちから言葉があふれている。覗き込んで感動している子には、あえて声をかけずにその感動を見守るようにした。共感も大切だが、感動を独り占めすることもまた大切だと考える。



ポンプでコップやボウルに色水を入れていく子どもたち。幼児クラスと一緒に活動したことで、年上の子の繊細な遊び方をよく見ていて真似る子も出てくる。大人が「混ぜてごらん」「何色になるかな」と声を意図的にかけなくとも、年上の子たちの姿から「オレンジになった！」と学んでいる様子が見られた。また、「〇〇ちゃんみたいに！」(年上の子が作りだした紫色と同じにならない・・・)と悩む子には、一緒に「あと何色を足したらいいかなあ」と保育者も一緒になって、少しずつ赤や青の量を調整して遊んだ。

泡遊びは、色水ほどの色の混ざりや発色を感じることはできなかったが、手洗いで使っている石鹸に色がついている新鮮さとフワフワの感触を楽しんだ。

透明なコップに色水と泡を組み合わせることで「ビールです！」「フワフワアイスクリームですよ〜」とごっこ遊びへも発展していた。



ゼリー遊びは、色水同様、発色の良さに子どもたちの心の動きも分かりやすく、日の光を通してキラキラ光る様子も楽しんでいった。

すくって入れる入れものによっても見え方が変わり、「みてみて!!!」と子どもからの発信もとても多い。

水の中に崩したゼリーを浮かべると、ゼリーだけの時と変わって見え、その変化も喜んでいる。用意した全色を混ぜると茶色く暗い色になるが「コーラみたい！」「珈琲です」とイメージ豊かに遊ぶ様子が見られた。



〈振り返り〉

これまでタライに沢山の色水を作って遊んで来たが、タライ自体が青色をしているため、タライから見る色はあまりクリアでなく美しさには欠けていた。今回透明なポンプを用意した事で、よりクリアに美しい色を見ることができ、子どもたちの心にも響いたように見えた。光や色を題材にするとき、「美しさ」は大切なポイントだと感じる。抽象的な感覚の問題でもあり難しいが、複数の保育者で「美しさ」を考えあいながら子どもたちに提供する素材を用意していきたい。

また、前回のサンキャッチャーの取り組みで光と色の融合が感じられなかったが、今回の色水やゼリーでは自然と日の光と合いまった美しさを感じる子どもの姿が見られたのはとても嬉しかった。

同じ食紅を使った色遊びでも、水・石鹸・ゼラチンと素材を変えることで光との融合や混ざり方の違い、感触の違いなど発見が多くあった。今後もその発見を子どもたちと一緒に喜び、楽しむ毎日が積み重なり心の豊かさに繋がっていくことを願いながら計画を立てていきたい。